

# 地球物理

第 8 卷 第 1 號

昭和 22 年 4 月

野滿隆治博士遺稿集

## 目 次

### 口 繪

野滿隆治博士小照，別府市龜川町野田裂罅泉  
野滿隆治博士略歴及著作目録

### 論 說

- 山崩れに就いて，第2報，河内堅上地之面の電氣的探査  
(風化土中の地之第一例)……………理學博士 野 滿 隆 治  
理 學 士 田 坂 泰 一  
齋 藤 泰 一
- 山崩れに就いて，第3報，別府市乙原の地之り調査報告  
(風化土中の地之第二例)……………理學博士 野 滿 隆 治  
田 坂 幸 三  
山 下 幸 三 郎
- 山崩れに就いて，第4報，新瀉縣鉢崎驛附近の成層岩磐内地之研究  
理學博士 野 滿 隆 治  
理 學 士 小 谷 秋 甫
- 温泉の湧出量と水頭との相關，其の二 裂罅泉……………理學博士 野 滿 隆 治  
理 學 士 後 藤 己 與 治
- 地殻潮汐に就いて，其の五，緯度の潮汐變化 (第二報)  
理學博士 西 村 英 一
- 砂粒角稜度表現法並に河砂の粒徑と角稜度との關係  
理學博士 野 滿 隆 治  
山 下 幸 三 郎
- 海岸地下水の研究(第4報)海岸淡水井の鹽水汚染並に石油井附近  
底水の錐狀膨隆に就いて……………理學博士 野 滿 隆 治

京都帝國大學理學部地球物理學教室



## 野満隆治博士

先生は生れつきの學者であつた。數理の驅使の自由さは科學者として、欠くべからざるものであるけれど、その上先生には學問それ自身が趣味であつて、その外に特に趣味といふものを持たれなかつた。それは學問一途に精進された原因でもあり又結果ともなつた。若い時から耳を病はれ、外界のゴシップは多く濾過されて、心は學問と純粹さで一杯であつた。御家族の少かつたのも學問への傾倒が思ひのまゝ出來た一つであらう。こうした環境で研究の進歩は著しくそれがまた學問一途の誘因になつた。學問への情熱はその圓熟と共にはげしくなるばかり。それで、或問題に關心を持たれると、短時日でその専門に精通された。一生をこれだけ學問にのみ専念された人も少いであらう。遠い出張の旅にも重いトランクは専門書で一杯であつた。その重い荷も人には持たされなかつた。いつ鍛練されたのか、太い腕には重いとは感じられなかつたのであらうか。重いのも心には荷にならなかつたのであらうか。車中でも寸暇を惜しまれた。對坐の客は思はず先生の職業を言ひ當てたさうである。先生の論文著作は多く、且多方面である。後世の専門家はその論旨の燦きに驚くであらうが、その論文が出來るまでの苦心と活躍の姿は、側にあるものが最も有難い教訓であつた。

先生〆心と體は尙ほ活動力が盛んであつたのに急逝された。科學建國の日本に惜しい事である。嗚呼！

## 野滿隆治博士 略歴

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 明治 17 年 11 月 7 日 | 熊本縣鹿本郡大道村古閑 誕生            |
| 明治 40 年 7 月      | 京都帝國大學理工科大學物理學科入學         |
| 明治 43 年 7 月 13 日 | 同 卒業                      |
| 明治 43 年 8 月 31 日 | 任海軍教授 補海軍兵學校普通學教官         |
| 大正 6 年 8 月 27 日  | 兼任海軍技師                    |
| 大正 8 年 10 月 10 日 | 免本職 補海軍砲術學校教官             |
| 大正 8 年 10 月 15 日 | 兼補橫須賀海軍工廠附                |
| 大正 8 年 10 月 22 日 | 兼海軍水雷學校教官                 |
| 大正 9 年 4 月 27 日  | 歐米各國ニ出張(1ヶ年間)             |
| 大正 9 年 11 月 14 日 | 理學博士ノ學位受與                 |
| 大正 10 年 1 月 19 日 | 京都帝國大學理學部講師囑託             |
| 大正 10 年 9 月 22 日 | 兼任京都帝國大學教授                |
| 大正 13 年 3 月 9 日  | 專任京都帝國大學教授 理學部勤務          |
| 大正 13 年 3 月 9 日  | 地球物理學第二講座擔任               |
| 大正 14 年 1 月 27 日 | 學術研究會議總務部所屬常任太平洋學術調查委員委囑  |
| 昭和 4 年 3 月 1 日   | 內務省大阪土木出張所河川港灣工事ニ關スル事務ヲ囑託 |
| 昭和 5 年 3 月 29 日  | 支那へ出張(1ヶ月)                |
| 昭和 7 年 7 月 22 日  | 滿洲へ出張                     |
| 昭和 7 年 11 月 8 日  | 上海へ出張(40日)                |
| 昭和 8 年 3 月 18 日  | 日本學術振興會學術部第六常置委員會委員       |
| 昭和 9 年 4 月 1 日   | 昭和9年度理學部地球物理學教室主任         |
| 昭和 10 年 12 月 3 日 | 日本學術振興會學術部第四特別委員會委員       |
| 昭和 12 年 3 月 3 日  | 學術研究會議會員                  |
| 昭和 12 年 9 月 30 日 | 補京都帝國大學理學部長               |
| 昭和 13 年 2 月 28 日 | 補京都帝國大學理學部附屬火山溫泉研究所長      |
| 昭和 13 年 4 月 15 日 | 科學審議會委員                   |
| 昭和 13 年 7 月 27 日 | 京大滿蒙調查會理事委囑               |

野滿隆治博士 略歴

昭和 14 年 10 月 25 日	内務省名古屋土木出張所河川ニ關スル事務囑託
昭和 14 年 10 月 26 日	昭和14年度文學部地理學授業擔當
昭和 15 年 3 月 31 日	昭和15年度文學部地理學授業擔當
昭和 15 年 8 月 17 日	中華民國へ出張(40日)
昭和 16 年 3 月 31 日	昭和16年度文學部地理學授業擔當
昭和 17 年 3 月 31 日	昭和17年度文學部地理學授業擔當
昭和 17 年 7 月 25 日	中華民國へ出張(3ヶ月)
昭和 18 年 3 月 31 日	文學部授業擔當
昭和 18 年 5 月 20 日	日本學術振興會學術部第十四特別委員會委員
昭和 18 年 6 月 24 日	學術研究會議測地學及地球物理學研究委員會委員
昭和 18 年 9 月 4 日	滿洲國へ出張(40日)
昭和 18 年 9 月 30 日	文學部地理學授業擔當
昭和 18 年 12 月 30 日	學術研究會議會員
昭和 19 年 2 月 28 日	學術研究會議第三十四研究班員
昭和 19 年 6 月 28 日	學術研究會議第一一二研究班長
昭和 19 年 12 月 18 日	依願免本官
昭和 20 年 1 月 17 日	敘正三位
	特旨ヲ以テ位一級被進
昭和 21 年 3 月 31 日	昭和二十一年四月ヨリ九月マデ文學部講師
昭和 21 年 5 月 9 日	京都帝國大學名譽教授ノ名稱ヲ受ケ
昭和 21 年 9 月 22 日	薨 去

野滿隆治博士著作目録

雑誌名のないのは邦文は「地球物理」英文は「京大紀要」を意味する〔 〕内名は共著者

海 洋	〔内田恵太郎氏と共著〕	萬有科學大系正篇第10篇	
海 洋 學	昭和 6 年 3 月		日本評論社
海 洋 學	〔地球の科學の内〕	昭和 6 年 7 月	ア ル ス
僕 ら の 海	昭和 15 年 9 月		誠文堂新光社
海 洋 學	昭和 17 年 1 月		興亞日本社
海	昭和 17 年 10 月		甲 鳥 書 林
河 川 學	昭和 18 年 8 月		地 人 書 館
太平洋の海水	〔大平洋の海洋と陸水〕	昭和18年12月	岩 波 書 店
日本近傍の海洋	〔世界地理第1卷〕	昭和16年4月	河 出 書 房

大正 5 年 1916

操航效果の數理的新研究 水交社記事 第14卷第1號 第182號 197頁

大正 6 年 1917

水中爆發の理論的研究

相接近して航行せる二船間の相互作用 現代の科學 第5卷第7號 9頁

ジャイロスコープとその應用 東洋學藝雜誌 第34卷 第6.7.8册 (第430號)

大正 7 年 1918

地球自轉に因る飛行體の横偏差 火兵學會誌 第12卷 第3號 147頁

昭和 2 年 1927

On the Contact Surface of Fresh-and Salt-Water under the Ground Near a Sandy Sea-Shore [Y. Toyohara B. Kamimoto] Vol. X. No.7 p.279

On the so-called "Granzfläche" in the Current due to the Difference of Density Vol. X. No.3 p.111

The Causes of the Annual Variation of the Mean Sea Level along the Japanese Coast [M.Okamoto] Vol. X. No.3 p.125

昭和3年 1928

地下水量測定に就いて 日本學術協會報告 第4卷 79頁

昭和4年 1929

On the Adsorption of a NaCl-Solution by Sand [R.Kamimoto. Y. Toyohara.]

Vol XII. No.5 p.265

昭和5年 1930

我國の經度基準測定の變遷 地球第13卷第6號 397頁

明石市の經度天測附鉛直線偏差に就きて 地球第13卷第3號 169頁

昭和6年 1931

大崎驗潮所第1回報告 [志田順] 單行本

北極をつゝむ氷河と冰山 大阪毎日新聞 昭和6年8月9日

昭和7年 1932

On the Convection Current and the Surface Level of a Two-layer Ocean [T.Tak-  
egami] Mem. Col. Sci. K. I. U. Series A. Vol. XV. No. 3 p.131

海産生物の寒海に旺盛なる理由の一考察 日本學術協會報告 第7卷 第2號 149頁

On the Distribution of Bombs from a Volcanic Vent [M.Namba]

Vol. XV. No.4 p.215

Note on Dr. Rosenhead's Papers. "The Annual Variation of Latitude" & "Tides  
on a Two-layer Earth"

Vol. XV. No.3 p.123

熊本縣菊地郡城北村産粘土團塊俗稱 [長者の團子] に就いて 日本學術協會報告  
第7卷第3號 353頁

昭和8年 1933

A Theory of the Rising Stage of Drift Current in the Ocean

野滿隆治博士 著作目録

I. The Case of No bottom Current, Memoirs of Col of Sci. K. I. U.

Series A. Vol. XVI. No. 2 (1933) p.161

II. The Case of Not Bottom-Friction „ Vol. XVI. No. 4 (1933) p.275

III. The Case of a Finite Bottom-Friction Depending on the Slip Velocity

[T.Takegami] „ Vol. XVI. No. 5 (1933) p.310

On the Development of the Slope Current and the Barometric Current in the Ocean

I. The Case of Not Bottom Current „ Vol. XVI. No.3 (1933) p.203

II. Different Bottom-Conditions Assumed [T.Takegami]

„ Vol. XVI. No.5 (1933) p.333

On the Density Current in the Ocean

I. The Case of No Bottom Current “ Vol. XVI. No.4 (1933) p.261

II. The Case of No Bottom-Friction „ Vol. XVI. No.6 (1933) p.383

III. The Case of a finite Bottom-Friction Depending on the Slip Velocity

[T. Takegami] „ Vol. XVI. No.6 p.397

風成海流發達期の理論 日本學術協會報告 第8卷第2號 182頁

氷海内の海流に關して日高孝次氏に酬ゆ 海と空 第13卷第9號 234頁

昭和9年 1934

Coast Effect upon the Ocean Current and the Sea Level

I. Steady State [T.Takegami] Mem. Col. Sci. K. I. U. Vol. XVII. No. 3 p.93

II. Changing State „ No. 5 p.249

津浪の災害は斯くして避けよ 大阪朝日新聞 昭和9年10月6日

昭和10年 1935

A Theory of Tunamis and Seiches produced by Wind and Braometric Gradient

Mem. Col. Sci. K. I. U. Series A. Vol. XVIII. No.4 p.201

海岸地下水の研究 其の一海鹽の効果 第2報 日本學術協會報告 第10卷第3號

628頁

野滿隆治博士 著作目録

An Advance in the Theory of Wells Jap. Journ. Astro. & Geophys

Vol. XII. No.2 p.159

On the Wind in the Lower Atmosphere 1. Jap. Journ. Astrom. & Geophys

Vol. XII. No.2 p.149

關西災害史略 災害科學研究所設立後援に對する謝恩會挨拶及講演

(日本學術振興會) 11頁

Surface Fluctuations of Lake Biwa caused by the Muroto Typhoon

Vol. XVIII. No. 5 p.221

Proper Oscillations of the Sea of Continental Shelf [K.Habu]

Vol. XVIII. No. 5 p.247

昭和11年 1936

昭和10年6月29日の京都大洪水〔豊原義一、土生片樟〕日本學術協會報告 第11卷  
第2號 160頁

昭和12年 1937

Studies on Marine Deposits

I. On the Action of Sea-Salts upon the Sedimentation of Fine Mud [T.Takegemi] Rec. Ocean. Works in Japan Vol. XI. No. 1 p. 1

暴風津波の研究 服部報公會研究抄録 第3輯 133頁

Proper Oscillations of Lake-shelves [K.Habu. M. Nakamiya] Vol. XX. No.1 p.3

Proc. Acad. Tokyo Vol. XIII. p.6

湖海の固有振動〔土生片樟、中宮光俊〕日本學術協會報告 第12卷第3號 349頁

昭和13年 1938

別府溫泉と潮汐附氣壓效果〔瀨野錦藏、中目廣安〕第2卷第1號 1頁

別府溫泉涵養源としての雨量〔池田亮二郎、瀨野錦藏〕第2卷第2號 97頁

別府舊市内の地中溫度分布と溫泉脈〔山下馨〕第2卷第3號 233頁

昭和10年9月24日の別府海岸浪害〔山下馨、瀨野錦藏〕第2卷第4號 369頁

別府溫泉の湧出量と水頭との相關 其の一 層狀泉〔瀨野錦藏、山下馨〕第2卷第3號

260頁

昭和14年 1939

The Beppu Hot Spring and the Tide, with the Effect of the Atmospheric Pressure [K. Seno] Vol. XXII. No.6 p.403

別府舊市街地の隠蔽温泉脈〔山下馨〕日本學術協會報告 第14卷第2號 234頁

阿蘇の中央火丘群及び温泉の分布と現火山活動勢力源の潜在位置に就いて 第3卷第1號 8頁

阿蘇第四火口噴出火山彈の分布に就いて〔南葉宗利〕第3卷第2號 112頁

Studies on flood Prediction in Japan Jap. Journ. Astr. Geophys.

Vol. XVII. No.1 p.83

地球物理學上より見たる阿蘇火山 日本學術協會報告 第14卷第3號 373頁

昭和15年 1940

Rainfall and Juvenile Water as the Feeding Origin of the Hot Springs in Beppu [K.Seno] Vol. XXIII. No.3 p.41

Distribution of the Subterranean Temperatures and the Hot Spring Veins in the Old City of Beppu [K. Yamasita] Vol. XXIII. No.3 p.97

The Correlation between the Rate of Discharge and the Pressure Head in the Beppu Hot Springs I. the Stratified Type [K.Seno, K. Yamashita]

Vol. XXIII. No. 3 p.75

海岸地下水の研究(第3報) 其の潮汐と地下水位附別府温泉の感潮度 第4卷第2號 109頁

別府温泉の重水(第1報)〔大塚昌三、堀龍夫〕 第4卷第4號 275頁

別府温泉の海底湧出と海洋學的要素に就いて〔瀨野錦藏、福本實、石井正巳〕 第4卷第4號 307頁

處女水と重水 日本温泉氣候學會雜誌 第5卷第3號 203頁

温泉水と處女水 温泉 第10卷 第13號 107頁

Studies on Marine Deposits

野滿隆治博士 著作目録

II. On the Stratified Settling of Fine Mud in Water [Y.Matsunaga] Rec. Ocean.  
Works in Japan Vol. XI. No.1 p.65

海底沈澱物の研究 I. 海鹽の細泥沈澱物に及ぼす影響〔竹上藤七郎〕

第4巻第1號 1頁

II. 細泥の不連続層状沈澱に就いて〔松永義明〕第4巻第1號 23頁

III. 深海黑色宇宙塵の成因に就いて〔瀬野錦藏〕第4巻第2號 81頁

大崎灣に於ける水温密度の異常變化とその原因〔服部達吉〕第4巻第2號 129頁

Damage from the High Waves of September 24, 1935 on the Beppu Coast

〔K. Yamashita K.Seno〕 Jap. Journ. Astron. Geophys. Vol. XVII. No.3 p.553

潮海の棚振動存立條件と Merian 週期の補正 第4巻第1號 38頁

湖海の棚振動存立條件と Merian 週期の補正 (第2報)〔岡本元治郎〕

第4巻第2號 119頁

室戸颱風に伴へる關西風津波の研究〔竹上藤七郎、松崎卓一〕 第4巻第2號 93頁

昭和16年 1941

引湯の研究 1. 引湯の冷却〔瀬野錦藏〕 第5巻第3號 171頁

矢作川河畔の地下水に就いて (序報)〔都々木春美、玉田博一〕 日本學術協會報告

第16巻第1號 20頁

昭和17年 1942

阿蘇内ノ枚に於ける京大研究用温泉掘鑿と地點選定並に湯量調節法

第6巻第1號 1頁

阿蘇大火口原に於ける裂弱線の電氣探查成績〔川口武雄、輕部末藏〕

第6巻第3號 171頁

矢作川河畔の地下水〔都々木春美、玉田博一〕 第6巻第3號 124頁

海水中の重水と水系〔大塚昌三〕 第6巻第2號 79頁

異方性大氣及び海洋 (地表風に就いて 第2報) 第6巻第2號 95頁

野滿隆治博士 著作目録

- 河海の結氷に就いて〔齋藤泰一〕 第6巻第2號 110頁  
山崩に就いて 第6巻第2號 135頁  
水中沈降による混合砂の定量分析に就いて 第6巻第2號 153頁  
河川の横断面に於ける鹽分並びに浮游沙泥の分布と横流〔阿蘇黒川の研究 第1報〕  
〔輕部末藏、川口武雄〕 第6巻第1號 16頁  
阿蘇カルテラの成因と陥没深度の判定 第6巻第3號 177頁  
河水位の日變化に就いて〔阿蘇黒川の研究 第2報〕 第6巻第3號 199頁

昭和18年 1943

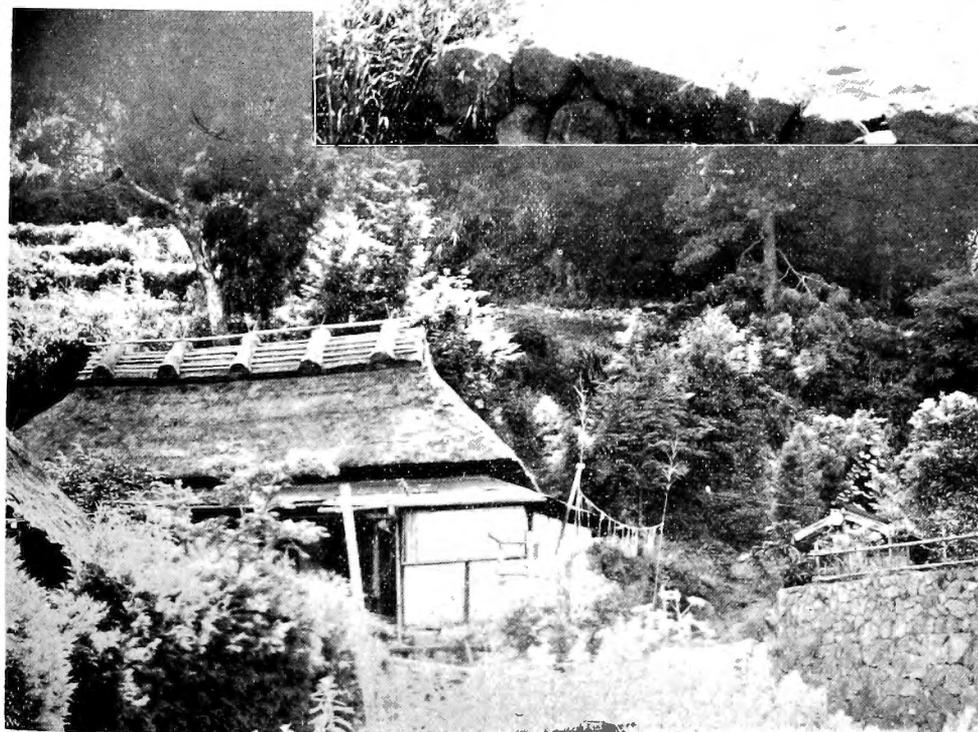
- 井戸理論の一進展（第2報） 豎井の揚水開始及停止に伴ふ附近水位變化と地層の彈性率〔山下馨〕 第7巻第1號 21頁  
井戸理論の一進展（第3報） 横井の揚水開始及停止後の附近水位變化〔中目廣安〕 第7巻第1號 41頁  
定常波による湖海の砂堆と砂漣〔齋藤泰一、田坂浩〕 第7巻第1號 61頁  
河水温年變化の上下流に於ける相違並に日變化〔阿蘇黒川の研究 第3報〕 第7巻第3號 199頁

昭和19年 1944

- 山崩れに就いて（第2報） 河内堅上地氈面の電氣的探査（風化土中の地氈第1例）〔田坂浩、齋藤泰一〕 第8巻第1號 1頁  
山崩れに就いて（第3報） 別府市乙原の地氈り調査報告（風化土中の地氈第2例）〔田坂浩、山下幸三郎〕 第8巻第2號 19頁  
山崩れに就いて（第4報） 新潟縣鉢崎附近の成層岩盤内地氈研究〔小谷秋甫〕 第8巻第1號 39頁  
温泉の湧出量と水頭との相關（其の二） 裂罅泉〔後藤巳與治〕 第8巻第1號 53頁  
海岸地下水の研究（第4報） 海岸淡水井の鹽水汚染並に石油井附近底水の錐狀膨隆に就いて 第8巻第1號 89頁  
砂粒角稜度の表現法並に河砂の粒徑と角稜度との關係〔山下幸三郎〕 第8巻第1號 73頁

別府市龜川町野田部落の裂隙泉

別府龜川町山際の大岩毎に熱水湧出する岩罅（七五三繩の附近）



昭和二十二年四月五日印刷

昭和二十二年四月二十五日發行

編纂者  
發行

京都帝國大學理學部

# 地球物理學教室

京都市下京區西洞院通七條南入  
內外印刷株式會社

印刷者 (京都41) 代表者 富 森 茂 彭

賣捌所

丸善株式會社京都支店

東京・大阪・名古屋・橫濱・福岡・仙臺

頒價 金參拾圓也